

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：33401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02962

研究課題名（和文）障害学生支援における学生相談カウンセラーの組織コンサルテーション機能に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Organizational Consultation Function of School Psychologists in Supporting Students with Disabilities

研究代表者

荒木 史代（ARAKI, Fumiyo）

福井工業大学・工学部・教授

研究者番号：20724008

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：障害学生支援のためのシステム整備や組織体制構築における学生相談カウンセラーの役割や機能は、大学コミュニティに対するアセスメントのもと、組織内の連携に取り組むことである。具体的には、支援者側から組織へ働きかけること（アウトリーチ）、支援者が学内組織を認知・理解すること、組織内の連携者との関係性を構築すること、教職員による支援に対する認知・理解を促進すること、であった。また、学生相談カウンセラーによる組織コンサルテーション機能を活用した障害学生支援体制の整備が、結果として障害学生の障害受容や自己成長の促進に寄与することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2024年4月に「障害者差別解消法」改正法が施行され、国立大学だけではなく私立大学においても合理的配慮の提供が義務化され、障害学生支援体制の整備は喫緊の課題となっている。本研究課題で明らかにした、学生相談カウンセラーの組織コンサルテーションにおける役割や機能、また必要とされる知識やスキルが、障害学生支援の専門性を明確化し、その促進要因や抑制要因を含め、今後の障害学生支援を担うカウンセラーやコーディネーターの教育に重要な視点を提供するものであると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The role and functions of the school psychologists in building a support system for students with disabilities were to address collaboration within the organization based on an assessment of the university community. Specifically, the role and functions were to reach out to the organization from the school psychologists, to help them recognize and understand the organization within the university, to build relationships with collaborators within the organization, and to promote recognition and understanding of support by faculty and staff. Furthermore, it was suggested that the development of a support system for students with disabilities that utilizes the organizational consultation function of the school psychologists contributes to promote the acceptance of disabilities and the personal growth of students with disabilities.

研究分野：学校臨床心理学

キーワード：障害学生支援 組織コンサルテーション 学生相談カウンセラー システム整備 連携

1. 研究開始当初の背景

(1) 学生相談カウンセラーの支援システムや組織体制構築における役割や機能は明確化されておらず、そのため学生相談カウンセラーがその専門性を生かし、システムや体制構築に貢献できる可能性があるという評価が適切になされていないことが課題であった。

(2) 従来、学生相談機関の活動モデル(下山ら, 1991)やその枠組み(機関充実のイメージ)(福森ら, 2014) 類型化(伊藤, 2014)等については報告があるが、いずれも機関に焦点を当てた研究である。しかし、特に、組織コンサルテーションにおいては、支援の中心となる学生相談カウンセラー等の専門家、いわゆる「人」の専門的機能や役割に着目した研究はこれまで報告がなかった。

2. 研究の目的

(1) 障害学生への支援プログラムの実践や、支援を行うための大学システムの整備において、大学・学生相談機関に従事する学生相談カウンセラーの機能や役割を明らかにし、実効的な組織体制の構築を可能とする。

(2) 障害学生支援に携わるカウンセラーやコーディネーターに必要な知識やスキルを明らかにし、組織コンサルテーションにおける学生相談カウンセラーの役割・機能モデルを作成する。

3. 研究の方法

(1) 学生相談、障害学生支援体制のシステム整備を行う上での促進要因を検討するために、学生相談機関の事例検討を行った。

(2) 障害学生支援における学生相談カウンセラーの役割と機能を明確化するために、大学の学生相談機関に従事する学生相談カウンセラー、コーディネーター9名にインタビュー調査を実施した。

(3) 障害学生支援体制の整備プロセスを検証するとともに、障害学生支援についての評価を目的に、障害学生1名にインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 地方私立 A 大学の学生相談機関の設立から 37 年間にわたるシステム整備と相談活動のプロセスを人的配置の観点から 3 期に分け検証し、学生相談機関が展開した要因を検討した。第 1 期は、A 大学に 1983 年に学生相談機関が開設され、学生相談の専門外の教員が相談員として、学生相談だけでなく教育的啓発的相談活動に従事した。第 2 期は、精神面やパーソナリティに課題を抱える学生の増加から、学生相談カウンセラーとして非常勤の臨床心理士を配置、規程を施行した。また、臨床心理士の常勤化に伴いグループワークを展開し、相談件数も増加した。常勤臨床心理士の退職に伴い、第 3 期では、複数の専門スタッフがフリースペースや全学生対象のUPI 面接などの相談活動を展開し、障害学生支援委員会の設置など組織体制整備や学内連携を強化するシステムを整備した。検証の結果、A 大学の学生相談機関のシステム整備と相談活動が、人的配置を含めて、図 1 に示す通り、その時々々のマクロシステム、大学コミュニティ、学生の状況やニーズに合わせて展開、実践されてきたことを明らかにした。

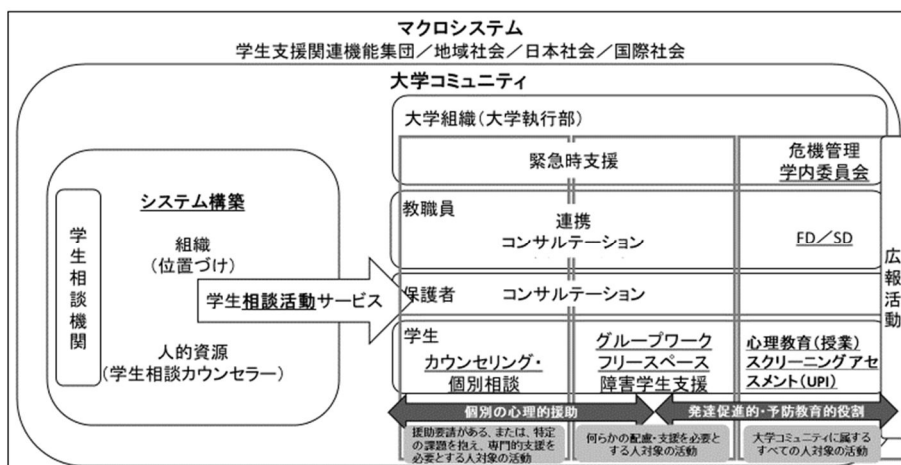


図 1 A 大学コミュニティにおける相談活動の展開

(2) A大学の学生相談機関の相談活動は、学生相談を担う「人」の特性や専門性により展開し、その結果、学生相談機関の利用者数が増加したことがわかった。第1期では、学生相談機関において相談員の役割を担った教員が、個別相談に加え、授業実践や全学生対象アンケート等、発達援助を目的とする実践を行っていた。学生に授業等大学教育を通して関わることは、大学教員の本来の業務の一つであり、相談活動として取り組みやすかったと考えられる。第2期では、常勤の臨床心理士によって、発達障害、精神障害のある学生対象にグループワークが実践された。これまでグループワークの経験があったことなど学生相談カウンセラーの特性が相談活動の展開に寄与したと考えられる。第3期では、複数の専門領域のスタッフが配置され、学生相談カウンセラー数が増員され、臨床心理士の資格のある教員が兼務となった。相談活動は、個別相談に加えフリースペースの設置や全学生対象のUPIを用いたスクリーニングアセスメントなど、個別の心理的援助から発達促進的・予防教育的役割へと多岐にわたり展開された。また、教職員との連携の促進、FD・SDへの関与など、その対象も学生から教職員、大学組織へ拡大し、教育環境整備への貢献にも寄与したことを明らかにした。

(3) 障害学生支援の体制整備や学内連携を促進する要因を明らかにすることを目的に、障害学生支援担当者9名へ実施したインタビュー調査を分析した結果、表1の通り、「支援者(カウンセラー・コーディネーター)」「学内教職員」「学生」に関する3つのカテゴリーを生成した。これらの結果から、障害学生支援担当者は、前職を含むこれまでのキャリア経験から、学内組織を見たと、組織連携のアセスメントを行いながら、時には支援者から学内組織へ働きかけ、学内連携や体制整備を行っていること、支援システムについて学内教職員の認知が進むことで、連携部署との関係性が構築されることがわかった。さらに、支援を必要とする学生の在籍も支援体制整備を促進する要因であることが明らかとなった。一方で、教職員の異動・雇用形態・職位は支援体制整備や連携の抑制要因となる可能性が示唆された。

表1 障害学生の支援体制の整備・連携に関連するカテゴリー/下位カテゴリーの分類

カテゴリー/下位カテゴリー	内容
<b>支援者(カウンセラー・コーディネーター)に関すること</b>	
支援者のキャリア経験	支援者が前職までに経験したキャリアにおいて体得した知識やスキル、現職への活用
組織・連携に関するアセスメント	組織や連携に対して、観察、情報収集等によるアセスメント
支援者の学内組織の認知	支援者の学内組織に関する認識(見たて)
支援者からの働きかけ(アウトリーチ)	支援を促進するための、支援者からの働きかけ(取り組み、アウトリーチ)
他大学・他大学支援者からの学び	先駆的な取り組みを行っている他大学への視察や他大学の支援者からの情報提供、支援者への相談
<b>学内教職員に関すること</b>	
教職員の支援に対する認知	(障害)学生の支援または支援体制に対する大学の教職員の支援に対する認知・認識
連携者(部署)との関係性	連携者との関係や関係性に関連するもの
同業の同僚・上司の存在	同じ業務(障害学生支援・心理)の専門家である同僚、上司が同じ職場にいること
教職員の異動・雇用形態・職位	大学内の職員の異動・雇用形態・職位に関連する内容
<b>学生に関すること</b>	
要支援学生の在籍	障害学生や支援を必要とする学生の在籍
学生自身の自己理解・支援要請	障害学生の自己理解や支援要請に関する内容

(4) 障害学生支援における学生相談カウンセラーに必要なスキルや知識を検討することを目的に、障害学生支援担当者9名に実施したインタビュー調査を分析した結果、表2の通り、「支援者の専門性に対する知識やスキル」「学生支援・他者理解・組織理解に対する態度」に関する2つのカテゴリーを生成した。これらのスキルや知識、態度を、障害学生支援担当者は、OJTや事例の積み重ねなどの専門職としての経験、上司や先輩からの指導、学会での研修、他機関の仲間からの情報共有などの他職種からの学び、内省や学会発表、論文執筆などの自己研鑽から、学生相談カウンセラーに必要なスキルや知識を得ていることがわかった。また、キャリアを通じて獲得した支援システムに関するスキルを、他の組織のコンサルテーションにも応用している。また、組織内の他者と連携するためには、自分自身や他職種の専門性を理解することが不可欠であることがわかった。

表2 支援者に必要なスキルや知識に関連するカテゴリー/下位カテゴリーの分類

カテゴリー/下位カテゴリー	内容
<b>支援者の専門性に対する知識やスキルに関すること</b>	
コミュニケーションに関連するスキル	対話、コミュニケーションに関連するスキル
アセスメント(情報収集、判断)	アセスメントに必要なスキル
障害学生支援に関する知識	(障害)学生支援のために必要な基礎的知識(障害、その他理論、資金確保)
行政の動向に関する知識	(障害)学生支援に関連する法律・文部科学省(国・行政)の動向に関する知識
専門性の理解	自身と連携する相手の専門性の理解に関すること
<b>学生支援・他者理解・組織理解に対する態度に関すること</b>	
探究心	支援者が常に知識や情報、スキルを求め、実際の自身の支援に活用しようとする思いに関連する内容
想像力	相手の立場、言動の背景を想像する力
文化的謙遜	他文化、他領域から学ぶ姿勢、態度
学生支援に対する目標	支援者の学生支援に対する目標や心構え、大事にしているところ
学生支援に対する態度	学生支援に対する態度、対応
支援者の具体的な働きかけ(例)	スキルや知識を語るときの、支援者の具体的な実践例
支援者の特性(と組織のマッチング)	支援者本来の特性に関する内容

(5) 身体障害学生への支援を事例として、障害学生支援体制の構築の効果を検証した。まず、障害者差別解消法施行後に入学した身体障害学生について、入学から卒業までの支援の実施過程を検討した。支援内容は、キャンパスのバリアフリー化など大学環境の整備、移動支援や支援学生の育成、就労支援としてインターンシップの紹介などであった。これらの支援を評価するために、身体障害学生 A へのインタビュー調査を分析した結果、表 3 の通り、「大学からの支援」「障害学生としての認知や行動」「大学生としての認知や行動」の 3 つのカテゴリーを生成した。これらの結果から、学内のバリアフリー化、支援学生による移動支援、インターンシップの導入が、A から肯定的に評価された。さらに、大学での障害学生支援が、障害学生の障害受容と自己成長に寄与していることが示唆された。

表 3 障害学生 A のインタビューのカテゴリー/下位カテゴリーの分類

カテゴリー/下位カテゴリー	内容
<b>大学からの支援</b>	
支援者(部署)の存在	障害のある学生を支援する部署、支援者に関すること
バリアフリー	大学施設のバリアフリーに関すること
移動介助	大学内の移動(例、教室から教室)に関する支援
支援学生の雇用	障害学生の支援学生を大学がアルバイトとして雇用すること
就職支援	就職活動の支援に関すること
<b>障害学生としての認知や行動</b>	
障害受容	自己の障害に関する(社会に対する)受容に関連すること
不安	障害学生本人の心理面(例、不安、緊張)に関すること
周囲への援助要請	周囲(例、友人)への援助要請に関すること
友人との関わり	大学生活一般での友人との関わりに関すること
障害特性×環境(移動)	障害特性による学外での移動に関すること
事前確認	社会や地域へ出かける際に、事前にバリアフリー環境等について調べたり、検索したりすること
就職活動	自身で開拓した就職活動に関すること
<b>大学生としての認知や行動</b>	
自己成長	大学生としての成長に関すること
専門的知識の獲得	大学で修学した専門的知識の獲得に関すること
資格取得	資格取得に関すること

(6) これらの研究の結果、障害学生への支援者である学生相談カウンセラーが、大学コミュニティに対するアセスメントを通して、組織の構成員との組織内連携へ取り組み、そのプロセスにおいて、さらにアセスメントと実践を積み重ねていることが明らかとなった。また、組織コンサルテーションにおける学生相談カウンセラーの役割・機能として、学生相談カウンセラーから組織へ働きかけること(アウトリーチ)や、支援者側が学内組織体制や組織の力動についてきちんと認知し理解すること、また、組織内の教職員との関係の構築に努めることや、教職員に障害学生支援や支援者についてきちんと認知し理解してもらうことが重要であることを明らかにした。支援者としての学生相談カウンセラーが、それらの役割や機能を果たすための促進要因は、支援者のキャリア経験、同業の同僚や上司の存在、他大学からの学び、支援者の雇用形態、要支援学生の在籍であった。また、抑制要因は教職員の異動であることがわかった。

さらに、学生相談カウンセラーが、組織コンサルテーション機能を発揮し、障害学生支援体制を整備することで、障害学生自身の障害受容や自己成長に貢献できることを明らかにした。

(7)2024 年 4 月に「障害者差別解消法」改正法が施行され、国立大学だけではなく私立大学においても合理的配慮の提供が義務化され、障害学生支援体制の整備は喫緊の課題となっている。本研究課題で整理した学生相談カウンセラーの組織コンサルテーションにおける役割や機能、また、必要とされる知識やスキルは、障害学生支援の専門性を明確化し、その促進要因や抑制要因を含め、今後の障害学生支援を担うカウンセラーやコーディネーターの教育に重要な視点を提供するものである。障害学生支援のためには、学内だけではなく学外、地域連携も重要である。今後は、本研究課題の成果を、学内組織から学外の地域連携へ展開し、障害学生支援に携わる学生相談カウンセラーやコーディネーターの役割について検討していきたいと考えている。

#### <引用文献>

- 下山晴彦・峰松修・保坂亨・松原達哉・林昭仁・齋藤憲司 1991 学生相談における心理臨床モデルの研究 - 学生相談の活動分類を媒介として . 心理臨床学研究, 9(1), 55-69 .
- 福盛英明・山中淑江・大島啓利・吉武清寛・齋藤憲司・池田忠義・内野悌司・高野明・金子玲子・峰松修・苫米地憲昭 2014 大学における学生相談体制の充実のための「学生相談機関充実イメージ表」の開発 . 学生相談研究, 35(1), 1-15.
- 伊藤直樹 2014 学生相談機関の類型化及び発展に寄与する要因に関する研究 . 心理臨床学研究, 32(4), 461-471 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 荒木史代	4. 巻 53
2. 論文標題 身体障害学生支援事例による障害学生支援体制の整備と実践プロセスの検証 - 障害学生へのインタビュー調査から -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福井工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 151-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代、般若郁子、譽田優子	4. 巻 53
2. 論文標題 令和4（2022）年度学生生活支援室活動報告 コロナ禍3年目の学生支援	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福井工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 216-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代・三浦英夫	4. 巻 52
2. 論文標題 発達障害学生による当事者研究ー「メモ書きのすすめ」修学支援のちょっとした手助けー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福井工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 114-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代・般若郁子・譽田優子	4. 巻 52
2. 論文標題 令和3年度 学生生活支援室活動報告ーコロナ禍2年目の学生支援ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福井工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 193-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代	4. 巻 42
2. 論文標題 37年間にわたる学生相談機関のシステム整備と相談活動の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代・小谷彩乃	4. 巻 51
2. 論文標題 令和2年度 学生生活支援室活動報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福井工業大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 190-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木史代・竹田周平・鷺田美佐子・譽田優子・渡邊嘉子・岩壁慈恵・藤田典子・田邊奈美・山本成恵・笠井利浩	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 発達障害学生の就労支援における学内・外部機関連携	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 374-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 荒木史代
2. 発表標題 障害学生支援の体制整備・連携の促進要因の検討 - 障害学生支援担当者対象のインタビュー調査より -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第42回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Fumiyo ARAKI
2. 発表標題 Relevant Factors that Facilitate Organization Consultation Function of School Psychologists
3. 学会等名 43rd annual conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒木史代、栗田智未、前川伸晃、加藤祐樹、稲木康一郎、米澤駿、廣澤愛子
2. 発表標題 コロナ禍の学生支援の大学内・間解析研究 - X県A大学の学生精神健康調査(UPI)実践と結果 -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第41回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fumiyo ARAKI
2. 発表標題 Implementation of organizational consultation: Engagement of a school psychologist a internal consultee
3. 学会等名 42nd annual conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 半澤 礼之, 大久保 智生, 岡田 有司, 水野 雅之, 荒木 史代, 田澤 実, 西垣 順子
2. 発表標題 学校適応はどのようにとらえられるのか(12 社会への移行期としての大学生の大学適応)
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒木史代, 反中亜弓, 森岡真樹, 江口昌克, 前川伸晃
2. 発表標題 「連携」の原点を考える - 多職種連携教育 ( IPE ) への布石 -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒木史代・竹田周平・鷺田美佐子・譽田優子・渡邊嘉子・岩壁慈恵・藤田典子・田邊奈美・山本成恵・笠井利浩
2. 発表標題 発達障害学生の就労支援における学内・外部機関連携
3. 学会等名 第58回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒木史代
2. 発表標題 発達障害学生の社会移行支援に必要な連携を考える
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会 ( AHEAD JAPAN ) 2020年オンライン大会 ( 招待講演 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒木史代
2. 発表標題 学生相談活動におけるシステム整備の検討-地方中規模私立大学の「学生相談機関」 としての35 年間の事例分析 から
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Fumiyo ARAKI
2. 発表標題 Implementation of an Inclusive Support System for Students with Disabilities at a Private University: Through organizational consultation by school psychologists
3. 学会等名 41st annual conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木史代
2. 発表標題 発達障害を抱える子どもの支援と教育医学の役割
3. 学会等名 第 67 回教育医学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------